大躍進! 迎春特大号 週刊ポスト

永久保存版　藤代冥砂撮り下ろしSEXY大全

袋とじスペシャル　2号連続　動く壇蜜　動く美熟女

お年玉付録「神パンツ」クリアファイル

AKB48

カリスマ美女医 宋美玄「女性器愛撫」禁断のスゴ技

退社女子アナ「勝ち組」「負け組」

ビートたけしの21世紀毒談「オイラの"死に方"を発表するぜ」

スクープ告白 田中角栄の子供が生活保護を受けていた

真紀子腹違いの弟

週刊ポスト

2013 JAN. 1.18

16ページ書き込み式付録　ポストならこうします!

裏エンディングノート　女性遍歴から隠し財産まで「墓場に持って行く話」

平成25年1月4日(金)発行・発売(毎週月曜日発行・発売)
平45号 第3号 通巻第2213号
昭和44年9月11日 第3種郵便物認可

420円 特別定価

まだまだ上がるぞ 平日均経 1万3千円で儲ける 安倍銘柄スクリーニング 36

「日本人に生まれてよかった!」 菅原文太／外山滋比古／長谷川慶太郎／小野喬／三好徹

絶対やってはいけない危険な「薬の飲み合わせ」大全

プロ野球「伝説の名勝負」その知られざるベンチ裏 特別編

言わずに死ねるか! 政界への惜別と直諫の辞

渡部恒三　山崎拓　森山真弓　深谷隆司　熊谷弘　村上正邦　筆坂秀世　山口鶴男　野末陳平　中村敦夫

追悼・米長邦雄「負け姿の美しい男」大崎善生

決戦は7月参院選

消費税も脱原発も憲法改正も! 日本の針路はここで決まる

橋下か安倍か!?「改選121議席」が握る

経団連・米倉会長! あなたいったい何なんだ

今週の金言

『目の前にいる困った客を助けるのが私の仕事』

〝燃える言葉〟が人と組織を動かす

ヒットを創る熱情金言

「介護旅行」という言葉をご存じだろうか。身体が不自由で車椅子に頼っていたり、要介護認定を受ける高齢者が楽しむ旅行のことだ。ともすれば自宅や施設に閉じこもりがちな人たちが誰にも気兼ねすることなく楽しめる旅があった。

＊

話は80年代半ばに遡る。大手旅行代理店勤務の篠塚恭一は、ツアー客とともにスペインの田舎町にいた。そのとき、家族との旅行を楽しむ高齢の女性が何気ない言葉を発した。

「自分でスーツケースを持てなくなったら、旅行するのはやめにしようと思っているの」

その女性にとって、旅行とは、趣味であり生き甲斐であり、人生のハリのようなものだった。篠塚は咄嗟にこういった。

「スーツケースくらい私が持ちますから旅行を続けましょうよ」

篠塚は思わず叫んでいた。

「旅は最高のリハビリだ！」

篠塚は思わず叫んでいた。Aさんの旅の記録をみると、1回目と3回目では表情が別人。篠塚の言葉に誇張はない。

介護を必要とする高齢者には旅の実例を見せることで理解を呼びかけてきた。

「介護を必要とする人間が旅行なんか出かけたら公的保護を打ち切られるのではないかと心配する人がたくさんいました」

そうした誤解も丁寧に説明し、取り除いてきた。

今、篠塚の呼びかけで大手旅行代理店を始めいくつかの旅行会社でも「介護旅行」の取り扱いが始まっている。2010年7月～11年6月までは212件だった同社の取扱件数は、翌2011年7月～12年6月には298件にも拡大した。市場の開拓者である篠塚に対して、最近になって「先見の明がありましたね」「いいところに目をつけましたね」という言葉が投げかけられるようになった。

「奇をてらったわけではありません。目の前にいた困っているお客さんを助けたかっただけです」

当初は探すのも大変だった車椅子の高齢者を受け入れる温泉旅館の数も増えた。静岡県東伊豆の熱川温泉が温泉街ぐるみでの受け入れ態勢を構築するなど、篠塚が地道に取り組んだ「輪」が急速に広がりつつある。

「高齢者の方は少しでも希望をいうと、わがままだと受け取られないか心配しています。しかし、そんな心配はいりません。我々はサービス業。お客様の要望に応えることが仕事です。旅を諦めないで！」

篠塚は強い調子で締めくくった。

回はいいや」はない。元気で旅慣れた高齢者もいつかは足腰が弱くなってくる。そうなっても旅を諦めてほしくない。車椅子や介護が必要な人でも旅をしたいに違いない。

篠塚はそんな旅のお手伝いこそが自分の仕事だと考えるようになった。

だが当時、周囲は「市場もなければニーズもない」とにべもなかった。それでも篠塚は諦めなかった。高齢者施設に出向いて入所者の話を聞けば、10人中7～8人は「出かけたい」「旅行がしたい」と希望を漏らした。施設は日常の世話で手いっぱい。とても外出にまでつきあう余裕はない。

95年、篠塚は旅行にも同行できるヘルパー、トラベルヘルパーの養成をはじめ、介護技術を提供しながらの旅行サービスを事業化する。

「本人が行きたいところへ、どうやったら行けるか考える」毎日が始まった。

例えば、温泉に行きたいという車椅子の高齢者の希望があったとする。当初は宿泊先を選択することすらままならなかった。多くの旅館で門前払い。それでも篠塚はめげなかった。旅行が好きだったのに諦めている高齢者の手足になりたいという一心だった。

「車椅子の方には介護されるご家族なども同行される。営業も十分に成り立つはずです」

篠塚の説得に徐々にではあるが、旅館などの理解も得られるようになってきた。国内旅行、海外旅行さまざまな旅に対応できるようになった今でも、一番需要があるのはふるさとの墓参だ。

「最後にここだけは行っておきたい」と切実な思いで依頼をしてくる人が多い。

70代半ばのAさんが墓参希望で申し込んできたとき、車椅子での移動もままならない、ほぼ寝たきりの状態だった。移動はストレッチャー。トラベルヘルパーの腕の見せ所だった。

無事に墓参を済ませたAさんの快復がここから始まる。

「無理だと諦めていたことができることがわかった。そうなると人間〝もう一度〟という意欲とともに張り合いもでてくるわけです」

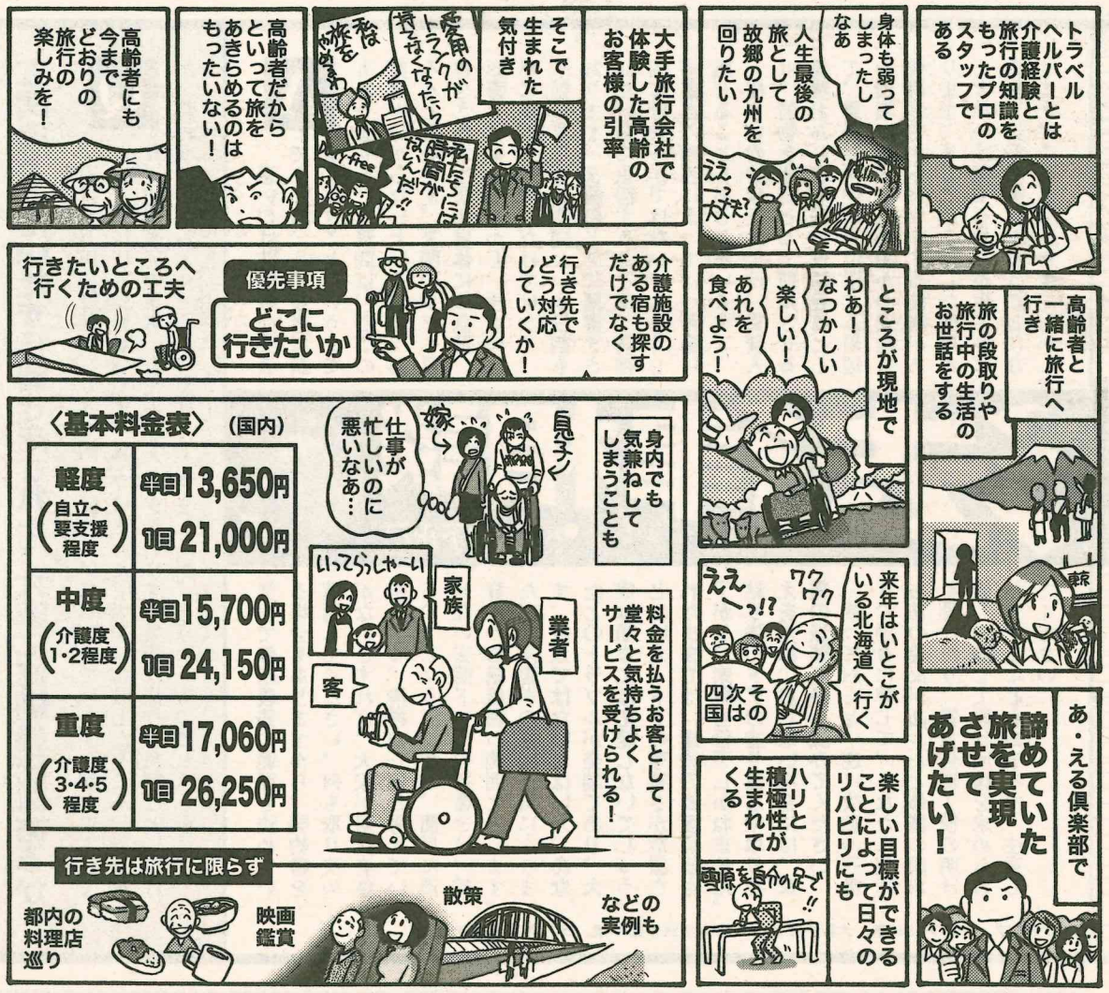
1回目の旅でストレッチャーを利用したAさんは、2度目の旅は車椅子、そして3度目の旅では杖をついてではあるが、自ら歩を進めるようになるまでに快復したのだ。

●文中敬称略

SPI あ・える倶楽部
代表取締役CEO
篠塚恭一 氏(51)

SPI あ・える倶楽部『介護旅行』

日本トラベルヘルパー協会の認定するトラベルヘルパーを同行させる旅行。ヘルパーの料金は半日（4時間）1万3650～1万7060円、1日（8時間）2万1000～2万6250円。ヘルパーの旅費や食事代は別途必要



●取材・構成／中沢雄二　イラスト／田代哲也